

事業報告書

近年の少子高齢化の急速な進行等、社会・経済情勢の目まぐるしい変化により、福祉を取り巻く環境も社会環境同様厳しいものとなっており、事業団においても行財政改革の推進、指定管理者制度の導入等により、自主性・自立性が発揮できる柔軟な法人経営と、利用者ニーズに応じたきめ細やかな福祉サービスの提供が求められている。

そこで平成25年度より3ヵ年をかけ、このような変化に迅速かつ的確に対応するため、本部をはじめとして組織全体の機能強化を推進することとした。

これをふまえ、法人に関わる事務・人事・給与の管理を一元的に行う体制を確立し、各施設で行っていた当業務を本部で行うこととした。また、各施設と本部の連絡・報告・情報共有・意思決定を行うために毎月1回施設連絡協議会を開催した。

また、当事業団の目指すべき方向と目標を実現するため、平成26年度から3ヵ年の中期経営計画を策定し、各事業の達成目標及び年次計画を明確化した。今後は中期経営計画に沿った事業計画作成と事業運営、達成目標の進捗状況の管理を進めていく予定である。

新規事業への取組としては、下関市がJR下関駅ビルに設置した次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」の指定管理者募集に対し、株式会社丹青社、NPO 法人下関子ども・子育てネットと共同事業体を組んで申込み、指定管理者に指定された。

1. 役員会等の開催に関する事項

定数 理事9名 監事2名 評議員19名

2. 平成25年度理事会の開催状況

No	年月日/回数	審議内容	出席者数
1	平成25年4月1日 第4回(持ち回り)	議案第11号 評議員の選任について	— —
2	平成25年5月29日 第5回	議案第12号 平成24年度事業報告並びに決算の認定について 議案第13号 評議員の選任について	理事 7名 監事 2名
3	平成25年7月1日 第6回(持ち回り)	議案第14号 評議員の選任について	— —
4	平成25年8月20日 第7回(持ち回り)	議案第15号 評議員の選任について	— —
5	平成25年10月3日 第8回	議案第16号 定款の一部変更について 議案第17号 職員就業規程の一部改正について 議案第18号 職員の育児及び介護休業に関する規程の一部改正について 議案第19号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定通所介護事業運営規程の一部改正について 議案第20号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定介護予防通所介護事業運営規程の一部改正について 議案第21号 福祉サービスに関する苦情解決第三者委員の選任について	理事 7名 監事 2名

		議案第 22 号 役員及び評議員選任規程の一部改正について 議案第 23 号 平成 25 年度第 1 回補正予算（案）について 議案第 24 号 経理規程の一部改正について 報告 1 インターネットバンキングの導入について 報告 2 次世代育成支援拠点施設について	
6	平成 25 年 12 月 1 日 第 9 回（持ち回り）	議案第 25 号 評議員の選任について	— —
7	平成 26 年 1 月 23 日 第 1 回	議案第 1 号 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業 運営規程の一部改正について 議案第 2 号 福祉型児童発達支援センター運営規程の一部改 正について 議案第 3 号 指定児童発達支援事業運営規程の一部改正につ いて 議案第 4 号 指定一般相談支援事業運営規程の一部改正につ いて 議案第 5 号 指定保育所等訪問支援事業運営規程の一部改正 について 議案第 6 号 平成 25 年度第 2 回補正予算（案）について 報告 1 ふくふくこども館の事業内容について 報告 2 中期経営計画案の策定について 報告 3 こども発達センターにおける診療所の併設につ いて 報告 4 理事長の職務の代理について	理事 7 名 監事 2 名
8	平成 26 年 2 月 27 日 第 2 回	議案第 7 号 ふくふくこども館管理規程について 議案第 8 号 組織規程の一部改正について 議案第 9 号 職員就業規程の一部改正について 議案第 10 号 給与規程の一部改正について 議案第 11 号 決裁規程の一部改正について 議案第 12 号 団印規程の一部改正について 議案第 13 号 下関市立親和寮管理規程を廃止する規程につ いて 議案第 14 号 理事長の専決規程の一部改正について 議案第 15 号 個人情報保護規程の一部改正について 議案第 16 号 経理規程の一部改正について 議案第 17 号 ハラスメント防止規程について 協議 1 中期経営計画案について	理事 7 名 監事 2 名
9	平成 26 年 3 月 14 日 第 3 回（持ち回り）	議案第 18 号 事務局長及び施設長の選任について	— —
10	平成 26 年 3 月 19 日 第 4 回	議案第 19 号 定款の一部変更について 議案第 20 号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定通所介 護事業運営規程の一部改正について 議案第 21 号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定介護予 防通所介護事業運営規程の一部改正について 議案第 22 号 経理規程の一部改正について 議案第 23 号 中期経営計画策定について 議案第 24 号 平成 25 年度第 3 回補正予算案について 議案第 25 号 平成 26 年度事業計画及び予算案について	理事 7 名 監事 2 名

3. 平成25年度評議員会の開催状況

No	年月日/回数	審議内容	出席者数
1	平成25年4月1日 第3回(持ち回り)	議案第4号 役員の選任について	— —
2	平成25年5月29日 第4回	議案第5号 平成24年度事業報告並びに決算の認定について	評議員 15名
3	平成25年10月3日 第5回	議案第6号 定款の一部変更について 議案第7号 平成25年度第1回補正予算(案)について	評議員 19名
4	平成25年12月1日 第6回(持ち回り)	議案第8号 監事の選任について	— —
5	平成26年1月23日 第1回	議案第1号 平成25年度第2回補正予算(案)について 報告1 ふくふくこども館の事業内容について 報告2 中期経営計画の策定について	評議員 15名
6	平成26年3月19日 第2回	議案第2号 理事の選任について 議案第3号 定款の一部変更について 議案第4号 中期経営計画策定について 議案第5号 平成25年度第3回補正予算案について 議案第6号 平成26年度事業計画及び予算案について	評議員 16名

4. 福祉サービスに関する苦情解決委員会第三者委員会の開催状況

No	年月日/開催場所	内容	出席者数
1	平成26年1月27日 本部事務局	(1) 各施設の現状と苦情解決に向けた取り組み	委員3名

5. 施設連絡協議会の開催状況

No	年月日/	協議内容
1	平成25年6月14日 本部事務局	協議1 緊急時の対応について 協議2 本部分担金について 協議3 協議会定例日の決定について
2	平成25年7月24日 本部事務局	協議1 次世代育成支援拠点施設の経過報告について 協議2 緊急時マニュアル・要綱について 協議3 本部の事務分担及び年度別計画について 協議4 各施設資金の一本化について 協議5 法人の情報公開(ホームページの開設)及び情報漏えい対策について 協議6 予算編成の仕方について

		協議 7	中期経営計画の策定について
3	平成 25 年 8 月 28 日 下関市陽光苑	協議 1 協議 2 協議 3	各施設の資金の一本化について 中期経営計画策定について 緊急時マニュアル・要綱について
4	平成 26 年 9 月 25 日 下関市梅花園	協議 1 協議 2 協議 3	各施設における緊急時対応マニュアルについて ホームページの作成について 職員研修について
5	平成 25 年 10 月 23 日 本部事務局	協議 1 協議 2	事業団専用のドメインについて 平成 25 年 11 月 1 日付人事異動の内示について
6	平成 25 年 11 月 28 日 下関市こども発達センター	協議 1 協議 2	リスクマネジメントについて 中期計画及び平成 26 年度事業計画並びに予算案の編成について
7	平成 25 年 12 月 25 日 本部事務局	協議 1 協議 2 協議 3	小口現金の取り扱いについて 福祉サービス苦情解決第三者委員会の開催について 評議員会及び理事会の開催について
8	平成 26 年 1 月 22 日 下関市陽光苑	協議 1	新年度予算のヒヤリング日程について
9	平成 26 年 2 月 26 日 下関市こども発達センター	協議 1 協議 2	事業団平成 26 年度事業計画・当初予算（案）について 職員交流の実施について
10	平成 26 年 3 月 27 日 下関市梅花園	協議 1 協議 2	ホームページ上の問合せフォームから寄せられた内容の取扱いについて 地震想定避難訓練の実施について

6. 施設職員に関する事項 平成 26 年 3 月 31 日現在の職員数 ※()は嘱託・パートで内数

区分	本部	はたぶ園	地域支援	どーなつ	母子通園	梅花園	陽光苑	デイサービス	合計
事務局長	1(1)								1(1)
施設長		1(1)				1(1)	1(1)		3(3)
事務員	3	1				1(1)	1(1)		6(2)
児童指導員		2	1	1(1)					4(1)
生活相談員・生活指導員						1	5	1	7
保育士		8(5)	1(1)	4(3)	1(1)				14(10)
作業療法士			1						1
理学療法士			1						1
言語聴覚士			1						1
臨床心理士		1	1						2
言語指導員			1(1)						1(1)
介護職員・支援員						12(4)	13(11)	5(4)	30(19)
看護師・准看護師		2(2)				2	3(1)	1(1)	8(4)
栄養士		1				1	1		3
調理員		3(3)				5(5)	7(3)		15(11)
自動車運転手		2(2)							2(2)
医師		3(3)				1(1)	1(1)		5(5)
ふくふくこども館準備室職員	2(2)								2(2)
合計	6(3)	24(16)	7(2)	5(4)	1(1)	24(12)	32(18)	7(5)	106(61)

7. 収支状況

本年度の収入は、介護保険事業収入 27,835,260 円、老人福祉事業収入 199,808,552 円、障害福祉サービス等事業収入 133,439,608 円、生活保護事業収入 151,481,056 円、福祉関係事業補助金収入 3,900,000 円、経常経費寄附金収入 360,660 円、受取利息配当金収入 12,875 円、その他の収入 7,562,683 円、積立資産取崩収入 603 円、合計 524,401,297 円であった。

支出は、人件費支出 341,512,899 円、事業費支出 122,751,251 円、事務費支出 32,855,861 円、固定資産取得支出 3,603,936 円、積立資産支出 8,583,300 円、合計 509,307,247 円であった。

収支差額 15,094,050 円を次年度に繰り越すこととなった。

また、各施設拠点区分から本部拠点区分間へ 19,877,724 円の繰入、こども発達センター拠点区分において、どーナつサービス区分からはたぶ園サービス区分間へ 3,500,000 円の繰入を行った。

本 部

1. 概 要

事業団の効率的な管理運営を図るため、次の事項を実施した。

(1) 理事会の開催

本年度は、10回開催した。役員等の選任、諸規程の制定、定款及び諸規程の一部改正、事業報告及び決算、中期経営計画の策定、事業計画及び予算等の議案を審議し、すべて承認された。

(2) 評議員会の開催

本年度は、6回開催した。役員等の選任、定款の一部改正、事業報告及び決算、中期経営計画の策定、事業計画及び予算等の議案を審議し、すべて承認された。

(3) 本部機能の強化

・事務の総括的・一元的管理

インターネットバンキングを平成25年6月に導入し、資金を一本化した。これまで各施設で行っていた給与・支払事務・出納業務等を事務局で行い、予算の執行状況を管理できる体制とした。また、公認会計士と契約し、会計業務の指導や随時相談等が受けられる体制となった。

・施設連絡協議会

本部事務局及び3施設の施設長及び副施設長で、定期的な連絡協議会を10回開催し、施設間の連絡調整を図り、運営上の具体的な問題等について協議した。

・中期経営計画の策定

中期経営計画検討委員会を立ち上げ、現状の分析や課題の抽出等を行い、計画の立案にあたっては職員の意見を集約した。計画の期間は平成26年度から平成28年度の3ヵ年とし、理念と事業運営の指針を明確化、各施設の目標と年次計画を設定した。

・ホームページ開設

法人のホームページを平成26年3月19日に公開した。

(4) 指定管理者公募への取組

下関市がJR下関駅ビル3階に設置する次世代育成支援拠点施設（ふくふくこども館）の指定管理者の公募があったことから、申込みに向け、共同事業体の結成を視野に株式会社丹青社、NPO法人下関子ども・子育てネットと協議を重ねた。3者の事業実績とノウハウを結集し、得意分野を生かした提案ができることから、共同事業体を結成して応募することとし、平成25年7月プロポーザルの結果、指定管理者として指定を受けた。

(5) ふくふくこども館開館準備業務

平成26年1月16日から平成26年3月31日まで、開館に向けた準備業務を受託した。職員を配置し、事業の企画立案、運営体制の準備、広報活動、必要物品の購入設置、オープニングセレモニー設営等の業務を行った。

2. 収支状況

本年度の収入は、下関市からの福祉関係事業補助金収入 3,900,000 円、経常経費寄附金収入 50,000 円、受取利息配当金収入 6,814 円、その他の収入 5,700,738 円、拠点区分間繰入金収入 19,877,724 円、合計 29,535,276 円であった。

支出は、人件費支出 22,205,196 円、事業費支出 941,857 円、事務費支出 5,730,577 円、固定資産取得支出 292,157 円、積立資産支出 311,460 円、合計 29,481,247 円であった。

収支差額 54,029 円を次年度に繰り越すこととなった。

は た ぶ 園

1. 概 要

定員30名の福祉型児童発達支援センターとして、こども発達センターの理念に基づき、利用児一人ひとりの発達に応じた専門的な支援を行うために、個別支援計画を作成して目標や課題を設定し、集団保育や個別指導を通して、運動、認知、言語、感覚機能等の発達を促すとともに、食事・排泄・衣服着脱・挨拶等の基本的な生活習慣を身につけ、将来の生活に必要な基礎を育てるための療育を行った。

さらに、運動機能及び言語面に発達の遅れや障害がある通園児に対して、発達支援室のスタッフによる運動訓練や言語訓練を行うとともに、定期的な発達検査及び保護者に対する心理相談を行った。

2. 通園児の状況（平成26年3月31日現在）

（1）年齢別男女別通園児数

年齢	0	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	0	0	2	12	9	23
女	0	0	0	0	1	4	5	10
計	0	0	0	0	3	16	14	33

（2）月別通園児数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児数（名）	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396
開園日数（日）	18	21	20	22	19	19	21	19	19	19	19	18	234
延通園児数（名）	544	627	574	606	561	540	635	560	573	576	558	534	6,888

<参考> 24年度実績 通園児 396名 開園日数 238日 延通園児数 7,002名

23年度実績 通園児 396名 開園日数 231日 延通園児数 6,794名

（3）卒園児等

平成25年度は14名が卒園した。また、幼稚園へ1名、保育所へ1名就園した。

3. 活動の概要

（1）療育活動の状況

子ども一人ひとりの発達に応じた運動あそび、ゲームあそび、机上活動等療育活動を行うとともに、保護者には、実施した活動の記録を渡し、療育活動の詳細な内容を伝え、また、クラス懇談会・個人面談・家庭訪問・保護者参加の療育活動を定期的に行うことで家庭支援に力を入れた。

職員の資質向上を図るため、各種研修への参加や、施設内研修・勉強会などを積極的に実施した。

（2）保育所等訪問支援事業

保育所等を利用中の障害児が、保育所等における集団生活に適応するため専門的な支援を必要とする場合に実

施する、保育所等訪問支援事業を平成25年度より開始した。

訪問先は、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校などで保護者との契約により実施している。

平成25年度は、はたぶ園を卒園し保育所、幼稚園に就園した児童を対象にしたため、保育所、幼稚園児各1名の契約を行い、保育所に3回、幼稚園に2回、計5回訪問し、支援を行った。

当事業は、はたぶ園の通所事業と平行して行っているため、職員数の限りがあることから利用対象を広げづらく、当事業をどのように継続できるか今後の課題となっている。

(2) 年間行事等

年	月	行 事 名
25年	4月	入園式、誕生会、はじめましての会
	5月	バス遠足（到津の森公園）、誕生会
	6月	保護者参観、誕生会、総合消防訓練
	7月	誕生会、はたぶ園開放日、クラス懇談会
	8月	はたぶ園開放日、夏祭り
	9月	総合消防訓練
	10月	クラス遠足（ぞう組・子育てふれあい交流プラザ、うさぎ組・海響館）、運動会、給食試食会
	11月	誕生会、クラス遠足（きりん組・子育てふれあい交流プラザ）
	12月	誕生会、クリスマス会、お買い物体験（ぞう組・セブンイレブン）
26年	1月	誕生会、クラス懇談会
	2月	豆まき、誕生会、外食体験（ぞう組、うさぎ組・マクドナルド）、クッキング（きりん組）
	3月	誕生会、お別れ会、卒園式、園外保育（ぞう組、きりん組・海峡ドラマシップ、うさぎ組・花の海いちご狩り）、仮入園

(3) 地域との交流等

近隣の幼稚園・保育所との交流を行うとともに、夏まつりでは多くのボランティアの参加のもと地域住民との交流を図った。

4. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入73,561,050円、経常経費寄附金収入250,660円、受取利息配当金収入1,620円、その他の収入1,301,770円、サービス区分間繰入金収入3,500,000円、合計78,615,100円であった。

支出は、人件費支出58,596,146円、事業費支出8,175,536円、事務費支出3,491,226円、固定資産取得支出1,747,670円、積立資産支出343,380円、拠点区分間繰入金支出5,210,000円、合計77,563,958円であった。

収支差額1,051,142円を次年度に繰り越すこととなった。

地 域 支 援

1. 概 要

市から受託している相談支援事業を担当するコーディネーターを擁して、相談体制の充実を図るとともに、平成24年4月1日より、障害福祉サービスを利用するすべての利用児（者）に対し、サービス等利用計画の作成が必要となったことから、計画作成を行い各種福祉サービスの提供の援助、調整等を行った。

また、こども発達センターの有する専門的機能を活用し、訪問及び外来による療育指導を行うとともに、学校・幼稚園・保育所等に対して指導を行い、在宅障害児(者)及びその家族の福祉の向上に努めた。

2. 相談支援事業（コーディネーターの活動内容）の概要

医療機関・保健所・幼稚園・保育所からの紹介を受け、療育機関の情報提供や将来に向けての助言、医療的な支援の必要性について説明を行った。また、障害福祉サービスの利用を希望するすべての障害児（者）に対し、サービス等利用計画の作成が必要となったことから、引き続き計画の作成を行った。

下関市自立支援協議会の相談部会とこども部会に出席し、支援が必要な大人や子どもを取り巻く環境改善に取り組んだ。また、旧4町の療育が必要な児童・生徒を支援するために必要な新規施設について協議を行った。

その他、ボランティア研修会を通じてボランティア育成を行った。

(1) 障害種別実績

(人)

(相談者数)		相談者数	内訳							合計
			身体障害者	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	
障害者	実人数	26	11	2	13	4	3	1	0	34
	延人数	794	584	21	129	222	11	1	0	968
障害児	実人数	431	40	34	279	2	285	0	13	653
	延人数	3,282	576	441	2,284	5	1,943	0	20	5,269

(2) 地区別相談者数

(件)

(地区別相談者数)		内訳								合計
		本庁	山陽	山陰	豊浦	菊川	豊北	豊田	その他	
障害者	実人数	11	4	5	0	1	0	0	5	26
	延人数	537	26	213	0	3	0	0	15	794
障害児	実人数	119	78	168	21	5	4	3	33	431
	延人数	1,077	530	1,402	126	37	13	10	87	3,282

(3) 支援方法

(件)

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関訪問・相談	その他	合計
件数	136	1,298	6	1,972	51	56	538	19	4,076

(4) 支援内容

(件)

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	3,564	213	326	47	345	92	35	61	71

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計
件数	7	0	12	4,773

※障害種別、支援方法、支援内容は重複

(5) サービス等利用計画作成件数

障害児相談支援

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約数	10	21	20	3	3	6	8	2	3	6	7	37	126
計画作成	26	22	22	20	9	16	8	10	9	9	10	17	178
モニタリング	9	13	9	1	8	8	20	17	7	11	9	10	122

特定相談支援

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約数			1		1		1	1					4
計画作成	3	1			3			3	1	1	2	1	15
モニタリング	1					2	1	2	2		1	1	10

3. 発達支援室の概要

利用者に対して、センター内の療育や相談、地域資源の情報提供を行った。また、関係機関との連携や啓発に関する事業として旧市内及び旧4町の幼稚園・保育所・保健師との発達支援連絡会を行い、年2回の内1回は合同で講演会を実施した。センター内でも各専門職が他の活動場面に入り、他職種間の連携に努めた。

その他、家族や関係者に向け、子ども達の理解や支援につながるよう保護者研修・ボランティア研修を行った。

●心理部門

利用者のニーズに応じて相談業務を行った。また、他部門の職員と連携し、発達相談や育児相談・カウンセリング等を行った。センター内の各種事業の個別支援計画の作成、家族支援、療育活動への支援に参加し、利用児のニーズに応じた支援を行った。その他、関係機関への訪問や来所による施設支援を行った。

●言語部門

はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業(キッズハウス)との連携を図り、子ども達や家族への支援を行った。また、他部門におけるグループ指導を行ったが、単発的なものになり継続的な支援につながらなかった。

センター利用の子どもたち一人ひとりのニーズに応えた個別指導に努めた。また、訪問や来所による施設支援を行った。

●理学・作業療法部門

センター利用の子ども達一人ひとりの個別指導を行った。紹介ケースが増え、個別指導の頻度を減らさざるを得なかった。はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業（キッズハウス）との連携を図り、チーム全体として子ども達や保護者への支援を行った。はたぶ園の子ども達の補装具の調整を業者、保護者と共に年二回実施した。また、外部研修や施設内研修、専門職同士による勉強会を行い、個別指導の技術、知識向上、支援方法の統一化を図った。また、訪問や来所による施設支援を行った。

4. 下関市障害児（者）療育等支援事業

(1) 在宅支援訪問療育等指導事業

豊浦総合支援学校で行われている訪問療育「とよそうキッズ」に職員を派遣し、昨年引き続き支援を行った。

(2) 在宅支援外来療育等指導事業

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等専門職による個別の訓練指導を行った。

また、はたぶ園の利用児以外の児童に対して嘱託医による健康診査を行った。

(3) 施設支援一般指導事業

利用児が通う幼稚園、保育所、学校へフォローのための支援を行った。さらには、障害児保育を行う保育所等の職員からの相談に応じるとともに技術指導を行った。

(4) 実績（平成26年3月31日現在）

事業名		指導先件数(件)	延回数(回)
在宅支援訪問療育等指導事業		85	169
内訳	巡回相談	85	169
	訪問による健康診査	0	0
在宅支援外来療育等指導事業		2,188	3,206
施設支援一般指導事業		58	115

参考 24年度実績 訪問療育延 144回 外来療育延 3,320回 施設支援延 110回
23年度実績 訪問療育延 129回 外来療育延 3,048回 施設支援延 118回

5. 収支状況

本年度の収入は、自立支援給付費収入 4,822,730 円、下関市から指定管理料収入 33,443,415 円、その他の収入 24,000 円、合計 38,290,145 円であった。

支出は、人件費支出 30,511,499 円、事業費支出 1,205,594 円、事務費支出 1,938,270 円、固定資産取得支出 269,325 円、積立資産支出 3,693,960 円、合計 37,618,648 円であった。

収支差額 671,497 円を次年度に繰り越すこととなった。

児童発達支援 どーなつ

1. 概要

発達の良い子どもや障がいのある子どもに日常生活における基本的な生活習慣の確立を促し、スムーズに集団適応ができるよう支援した。個々の特性や発達に応じた集団保育をベースに運動・認知・言語・社会性の発達を促した。

2. 利用の状況

(1) 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	11	20	20	21	19	19	21	21	19	19	19	14	223
延利用児数(日)	145	262	292	307	283	303	278	287	293	318	304	226	3,298
1日平均(人)	13.1	13.1	14.6	14.6	14.8	15.9	13.2	13.6	15.4	16.7	16	16.1	14.7
初日契約児数(名)	61	80	88	97	101	103	104	104	110	111	115	112	—

参考 24年度実績 開所日数 227日、利用延数 3,001名、1日平均 14.5名

23年度実績 開所日数 230日、利用延数 2,844名、1日平均 12.4名

(2) 活動の概要

児童発達支援管理責任者を配置し、利用児一人ひとりに対して個別支援計画を作成、発達支援室職員と共に継続的な評価等を行い、サービスの充実につながるよう努めた。年齢や発達段階に応じたグループ編成をし、より効果的な療育と個々に必要な支援をタイムリーに行えるよう努めた。また、1グループの登録数を15名までに増やしたことで、待機児が減少し利用率が向上した。

発達障がい児に有効な視覚支援(実物・写真カード等)を活用し、子ども達に分かりやすく伝える支援を行った。

幼稚園・保育所との併用児については、必要な児には訪問支援を行い、幼稚園・保育所の職員と支援方法について確認をし、保護者を含めた情報共有や共通認識を行った。

3. 収支状況

本年度の収入は、障害福祉サービス等事業収入 19,615,793円、経常経費寄附金収入 60,000円、合計 19,675,793円であった。

支出は、人件費支出 12,391,585円、事業費支出 430,663円、事務費支出 257,483円、積立資産支出 3,048,240円、サービス区分間繰入金支出 3,500,000円、合計 19,627,971円であった。

収支差額 47,822円を次年度へ繰り越すこととなった。

母子通園

1. 概要

母子通園訓練事業（キッズハウス）では、おおむね3才までの心身障害児や発達のが気になる子に対して早期療育を行った。

2. 母子通園訓練事業の状況

(1) 利用状況

(単位 日・組)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開設日数	3	5	4	5	3	4	5	4	4	4	4	3	48
利用組数	35	72	61	63	39	78	91	45	43	40	41	34	642

参考 24年度実績 開園日数 48日 延利用組数 561組
23年度実績 開園日数 47日 延利用組数 468組

(2) 活動の概要

毎週水曜日、おおむね3才までの発達障害や発達の遅れが気になる子どもとその保護者を対象に、保育士が各専門職員と連携し、遊びを通して療育活動を行った。親子での活動を通して、安定した母子関係の基本となる豊かなコミュニケーション力を育てるとともに、保護者との連携を密にすることで、子どもの状態をより把握し、保護者が障害や発達の遅れを受容し、愛情と将来の見通しを持って子育てができるよう支援を行った。

人員増加により、少人数でのよりよい療育や母子支援のため今年度11月から2グループの隔週利用とし、支援の充実を図った。

さらに今年度より施設内で行う保護者研修を水曜日に開催し、保護者が参加しやすい設定をした。

3. 収支状況

本年度の収入は、下関市からの指定管理料1,996,620円であった。

支出は、人件費支出1,365,527円、事業費支出37,898円、事務費支出21,861円、合計1,425,286円であった。

収支差額571,334円を次年度に繰り越すこととなった。

梅 花 園

1. 概 要

定員60名の救護施設として、身体上または精神上著しい障害があり、独立して日常生活を営むことのできない要保護者に対して、措置機関の委託により、生活保護法第38条の規定に基づいて生活扶助を行った。

2. 入園者の状況（平成26年3月31日現在）

(1) 年齢構成

(単位 人・歳)

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計	平均年齢
男	0	0	0	2	7	13	5	27	61.6歳
女	0	0	0	4	1	12	10	27	66.1歳
計	0	0	0	6	8	25	15	54	63.9歳

※最高年齢：男性73歳 女性84歳

(2) 在園期間の状況

(単位 人・年)

	1年未	1～3年未	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未	15年以上	合計	平均
男	1	8	3	5	3	7	27	9.1年
女	1	6	0	6	2	12	27	16.3年
計	2	14	3	11	5	19	54	12.7年

(3) 入退園の状況

(単位 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月初在園者	59	58	57	57	56	56	57	56	56	57	58	56	683
入園者	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	5
退園者	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	3	2	10

※前年度 合計676名（月平均56名） 入園者9名 退園者5名

(4) 障害等の状況

(単位 人)

	身体障害	知的障害	精神障害	知的・身体障害	知的・精神障害	身体・精神障害	身体・知的・精神的・精神	その他	障害なし	合計
男	3	5	10	1	4	2	0	1	1	27
女	1	5	12	2	4	0	1	0	2	27
計	4	10	22	3	8	2	1	1	3	54

今年度4月は59名でスタートした。前年度に比べ入園者は9人から5人と減少、退園者は5人から10人と増加した。月平均の利用者は56名となった。入園に至る経緯は、精神病院および総合病院への入退院を繰り返すため、単身生活よりも施設入所が適していると入園に至ったケース、単身生活が難しいため、入園に至ったケースであった。また、緊急的に帰来先への交通手段が確保されるまでの数日間受け入れたケースがあった。退園について

は、長期入院による措置解除や他法活用で有料老人ホーム、ケアホームへ入所するケース、死亡するケースがあった。

3. 処 遇

当園では個別ニーズに沿ったサービスを提供できるよう個別支援に取り組んでおり、行事やクラブ活動の実施以外にも、希望があればグループや個人で出かけるなど、充実した日々が過ごせるよう処遇の改善に努めた。

今年度は、食堂の椅子の更新、居室2部屋の壁を補修した。

(1) 年間行事等

年 月	園 内 行 事		園 外 行 事
25年4月	誕生会	不在者投票	買い物ツアー-49名 ・日帰りレク(いちご狩り)34名
5月	誕生会・やきそば会		
6月	誕生会		日帰りレク(北九州パーパス) 38名
7月	誕生会・園内消毒	胸部レントゲン	日帰りレク(川棚グランドホテル) 53名 陽光苑盆踊り 14名
8月	誕生会・盆踊り		
9月	誕生会		買い物ツアー-42名
10月	誕生会・お好み焼会	園内清掃	一泊旅行(長崎) 29名
11月	誕生会・園遊会	予防接種 避難訓練	吉見地区文化祭出展
12月	誕生会・クリスマス会・もちつき	大掃除	
26年 1月	祝賀会・誕生会 すき焼き会		初詣(忌宮神社、乃木神社、住吉神社) 33名
2月	誕生会・節分豆まき・ ふく贈呈式	布団乾燥 不在者投票	
3月	誕生会・ひな祭り 開設記念	避難訓練	

(2) 個別支援計画

利用者一人ひとりの意向を尊重し、多様なニーズを踏まえてサービスを提供するために個別支援計画を策定している。

今年度は元大工であった利用者が自己実現として、設計図を書き、資材を職員と共に購入し、餅つき臼の台座と四人掛けベンチを作成した。周りの人達に喜ばれることで、本人もやりがいを見出している。

(3) クラブ活動

利用者が主体的に取り組むことができるプログラム内容とした。クラブ活動は、成果の出せるような機会を設け、参加を呼びかけた。

クラブ名	平均参加人数		実施状況	講師	職員	備考
	男	女				
陶芸	2	5	月2回	外部	2	
お茶会	4	7	月2回	外部	2	
踊り	6	10	月2回	外部	7	
カラオケ	5	6	月2回	—	2	
ぬり絵等	3	8	月3回	職員	3	※
ハイキング	6	7	年5回	—	5	※
ボーリング	12	8	年2回	—	5	
映画上映	5	9	年3回	—	—	
書道	6	8	年3回	職員	2	

※ぬり絵のほか、行事の飾り付け作成、折り紙細工、牛乳パックを使用した小物作りなど。

ハイキングは、吉母、毘沙の鼻、湯玉の鯖釣山へ行った。

(4) 作業の状況

作業名	平均参加人数		実施状況	備考
	男	女		
全員作業	全員	全員	月1回	園内清掃、除草、野菜の栽培など
ポイント制	3	2	月10回	園内清掃、除草、野菜の栽培など ※

※利用者には、参加する動機付けとして、ポイントを付与している

駐車場整備・・・花壇であったスペースを駐車場として整備するため、利用者と職員で桜の枝を伐採し、花壇を撤去した後、皆で碎石を運び、撒いて均し、手作りの駐車場が完成した。

(5) 職場体験

将来的に施設を退所し、自立した生活を送ってみたい希望がある利用者に対し、働くことを体験するため東洋ランドリーの理解と協力を頂き、3名の利用者が木・日曜日を除く午後に近隣クリーニング工場の仕事に出向いた。

(6) 健康管理について

手洗いの励行と手指消毒、インフルエンザ流行の時期は個人外出を控え、1日に二回の嗽を実施した。

- ①嘱託医による定期検診（毎月）
- ②定期採血（半年に1回）※必要のある人は隔月 下関病院
- ③胸部エックス線間接撮影（年1回） 下関市医師会病院
- ④インフルエンザ予防接種（11月） 下関病院

（7）給食について

今年度から月に一度、昼食時の主菜を、肉と魚のどちらか一品、選択できることとした。

利用者に好評なため、次年度も継続して実施する。

（8）地域交流について

吉見文化協会、フラロード等の各種慰問団体の受け入れ、盆踊り大会、地域文化祭出展などに積極的に参加した。また、地域住民に対し、園内行事への参加を呼びかけている。

4. 第三者評価受審について

今年度受審する予定であったが、事前準備不足のため、次年度に見送りとなった。

次年度の受審に向けて、梅花園緊急時対応マニュアル、業務に関して根拠となるようなマニュアル等の改定等をおこない、職員間での意思統一と意識向上が図れた。

5. 実習生受け入れについて

今年度は職場等体験実習として1名、相談援助実習として2名を受け入れた。

福祉に携わる人材や後継者を育成することを目的に実習生を積極的に受け入れている。

6. 収支状況

本年度の収入は、市からの指定管理料収入（措置費収入）151,481,056円、受取利息配当金収入906円、その他の収入84,246円、合計151,566,208円であった。

支出は、人件費支出87,332,506円、事業費支出45,950,994円、事務費支出7,187,531円、固定資産取得支出315,000円、積立資産支出501,420円、拠点区分間繰入金支出5,605,000円、合計146,892,451円であった。

収支差額4,673,757円を次年度へ繰り越すこととなった。

陽 光 苑

1. 概 要

施設運営については、年度当初に108名まで減少した入苑者の確保を目指し、関係機関との連携を深めていくとともに、柔軟な受入体制・介護サービスを併用しての施設生活の継続を図っていくことで、入苑者の増加を目指した。入苑者の中には重篤な疾患や精神疾患を有する者も多く、平成25年度より障害者等加算の申請・取得を行い、マンパワーの確保・施設環境の改善に取り組み、接遇の向上に努めた。また、嘱託医・関係医療機関との連携により、入苑者が施設での生活を長期間送ることが出来るよう疾患面でのフォローに職員一丸となり努め、入苑者・家族よりの一層の信頼を頂くことが出来た。

また、老朽化した備品・付帯設備等の更新については、主管課との積極的な協議を開催し、環境改善の提案を行っている。平成25年度は、居室扉の修繕や調理器具の更新を行った。加えて、認知症を有する入苑者への対策として、外部の人感センサーの増設と人感センサー連動型のカメラ・モニターを設置し、事故防止に努めた。

入苑者への対応については、運動機会・社会参加機会の増大を目的に、工夫した企画を行うことで施設行事等への参加者増を図り、生活の充実を目指した。また、衛生管理面でも口腔ケア・感染症の予防の具体的な取り組みを行い、感染症蔓延を防ぐことが出来た。

介護予防支援短期宿泊事業においては、利用者に対し、家庭的な雰囲気が構築できるよう対話や行事への参加を積極的に促すとともに、関係機関との調整に努め、被虐待者や生活困窮者等の処遇困難事例の長期受け入れにも柔軟に対応した。平成25年度は短期宿泊事業利用者6名のうち、3名（被虐待者1・生活困窮者2）が、本人の希望により陽光苑へ入所となった。

2. 入苑者の状況

(1) 月別入苑者数（各月1日現在）

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 平均
入苑者数	111	110	110	112	114	116	117	116	116	115	116	114	113.9
入苑	1	2	4	2	3	1	3	0	0	0	1	2	19
退苑	4	2	0	0	1	2	2	0	1	0	2	1	15

※入苑者数合計1367名（前年度1418名：月平均118.2名） ※退所者内訳：死亡7・長期入院7・その他1

(2) 措置機関別入苑者数（定員130名）（平成26年3月31日現在）

（単位：人）

措置機関	下関市	宇部市	長門市	萩市	小国町			現員
人数	105	1	7	1	1			115

(3) 年齢構成 (平成 26 年 3 月 31 日現在) (単位 : 人)

区分	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 以上	合 計
男性	5	15	13	11	6	2	0	52
女性	1	3	8	15	16	9	11	63
計	6	18	21	26	22	11	11	115

※ 最高齢者 男性 88 歳 女性 95 歳 平均年齢 77.1 歳 (男性 72.6 歳 女性 80.9 歳)

(4) 在苑期間 (平成 26 年 3 月 31 日現在) (単位 : 人)

区分	1 年未満	1～3 年	3～5 年	5～10 年	10～15 年	15 年以上	合 計	平 均
男性	10	11	9	12	7	3	52	5.7 年
女性	6	14	12	17	9	5	63	6.5 年
計	16	25	21	29	16	8	115	6.1 年

3. 処 遇

日常が繰り返されることで、入苑者が単調・無為な生活を送ってしまうことがないように、例年実施している施設内外のレクリエーションに工夫を凝らした。具体的には、茶話会の開催・苑内外作業の定例化等により、コミュニケーション・運動機会の確保に努め、ボランティア受入についても、新規のもの・参加型のものを導入し、好評を得た。

施設日課においては、平成 25 年度より入浴日の変更を行い、職員が入苑者の介助・相談に柔軟に応じていける時間を作ることでコミュニケーションの機会が増えた。また、夕食後に口腔ケアの時間を導入し、口腔衛生の習慣化・援助に努めている。

その他にも、職員研修・各マニュアルの整備に取り組むことで、職員の専門性の向上・対応の統一化を図り、入苑者が安心・安全な生活を送っていけるような側面的な援助にも留意している。

(1) 主要苑内行事

毎月	誕生会・喫茶・外出レクリエーション・苑内レクリエーション・自治会役員会・選択食
4 月	不在者投票
5 月	園遊会
6 月	衣類販売・バイキング食
7 月	日帰り旅行 (福岡タワー)・日帰り旅行 (川棚方面)・胸部 X 線・施設消毒・夏祭り (地区自治会共同実施)・不在者投票
8 月	盆供養・梅花園夏祭り参加・教育課程実習生受入
9 月	土鈴作り・敬老祝賀会 (地区招待)・彼岸供養
10 月	昼間想定避難訓練・衣類販売・居室消毒・自治会当番慰労会・市老協演芸大会
11 月	焼き芋大会・開設記念祝賀会・日帰り旅行 (マリノアクルーズ)・吉見地区文化祭・インフルエンザ予防接種・居室消毒・県老人ホームグラウンドゴルフ大会

12月	クリスマス年忘れ会・クリスマスイルミネーション
1月	新年祝賀会・どんと焼き・書き初め
2月	豆まき・針供養・不在者投票
3月	ひな祭り・彼岸供養・夜間想定避難訓練・自治会当番慰労会・居室消毒

(2) クラブ活動

クラブ名	平均参加人員			指導者	職員	実施状況
	男性	女性	計			
大正琴	1	8	9	ボランティア (1)	職員	月2回程度実施
陶芸	3	6	9	ボランティア (1)	職員	月1回程度実施
手工芸	0	10	10	職員	職員	月1回程度実施
カラオケ	8	7	15	職員	職員	月2回程度実施
グラウンドゴルフ	6	2	8	職員	職員	月1回程度実施
絵画	8	18	26	職員	職員	月1回程度実施
苑内外作業	10	20	30	職員	職員	月1回程度実施

●平成25年度ボランティア受入状況

年月日	団体名
4月9日	神社庁健康祈願
4月21日	ハーモニカ・ギター演奏慰問
5月26日	ジャグラー三世ニューマジック慰問
9月2日	考古博物館土鈴づくり
12月1日	竜岡カラオケクラブ慰問
12月21日	あかね会クリスマスコンサート
1月17日	風華ふれあいコンサート (尺八・歌)
2月9日	ふく連盟慰問
3月17日	民生委員視察 (広島県)
3月24日	神社庁健康祈願

(3) 介護予防支援短期宿泊事業

下関市から委託を受け、在宅での生活が一時的に困難で、介護保険の対象にならないおおむね 65 歳以上の利用者を短期間お世話する事業を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	2	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	1	8 (延べ)
利用日数	32	0	0	7	8	15	25	0	0	0	0	14	101

※利用実数 6 名

(4) 健康管理について

- ① 嘱託医による定期検診 (毎月)
- ② 胸部エックス線間接撮影 (年 1 回) 下関市医師会病院
- ③ インフルエンザ予防接種 (年 1 回) 江藤病院
- ④ 基本健康診断 (年 2 回) 江藤病院

4. 収支状況

本年度の収入は、市からの指定管理料収入 (措置事業収入) 199,318,642 円、介護予防支援短期宿泊事業助成金収入を含むその他の事業収入 489,910 円、受取利息配当金収入 3,397 円、その他の収入 450,729 円、合計 200,262,678 円であった。

支出は、人件費支出 108,385,071 円、事業費支出 62,390,721 円、事務費支出 13,107,158 円、固定資産取得支出 703,784 円、積立資産支出 593,760 円、拠点区分間繰入金支出 6,715,000 円、合計 191,895,494 円であった。

収支差額 8,367,184 円を次年度に繰越すこととなった。

陽光苑デイサービスセンター

1. 概 要

・通所介護・介護予防通所介護

要介護者及び、要支援者を対象とした制度であるところから、個々の通所介護計画に沿った、入浴、排泄、食事といった日常生活上の必要な世話をを行った。年々、高齢化重度化していく利用者の状態に応じて、見守り介助の強化を図り、また、機能訓練を取り入れることで心身機能の維持あるいは回復にも努めた。利用回数を増やす希望にも対応することで利用者の家族の介護負担の軽減を図り、併せて身体的・精神的自立の支援を図れるように努めた。また、施設紹介を目的とした宣伝用チラシの作成・配布を行った。

・介護予防支援通所

介護保険による支援を必要としないものの、日常生活を営む上で何らかの援助が必要な人達に対して、要支援、あるいは要介護になる事を予防するため、ストレッチ運動や軽体操および口腔体操などの機能回復訓練を行った。状態の変化や利用回数を増やしたいとの要望などにより、徐々に介護保険の申請を行う方が増えている。

・生きがい支援通所

介護保険通所事業、介護予防支援通所事業の範疇には入らないが、閉じこもりの解消などの支援が必要な人達に利用していただき、生きがいのある生活を送ることができるよう、楽しみを提供すること・社会性の喪失防止に努めた。

2. サービス提供状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

利用者数内訳

(1) 介護保険（通所介護）事業 平成 25 年度登録人数 32 人 (単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	200	211	193	210	222	200	210	199	188	176	177	174	2,360
24	166	197	199	197	194	166	203	187	167	162	167	175	2,180

(2) 介護保険（介護予防通所介護）事業 平成 25 年度登録人数 20 人 (単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	40	35	40	45	42	39	43	38	34	48	53	58	515
24	47	53	54	51	57	45	46	43	45	35	42	42	560

(3) 介護予防支援通所事業

平成 25 年度登録人数 26 人

(単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	43	44	42	45	38	38	37	30	28	31	29	28	433
24	51	53	52	52	47	46	45	48	44	41	45	48	572

(4) 生きがい支援通所事業

平成 25 年度登録人数 6 人

(単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	4	4	3	4	2	2	2	7	7	2	2	2	41
24	3	4	4	6	5	8	6	4	2	2	2	2	48

3. 主要行事

デイサービスでは利用者が健康で生きがいをもった在宅生活を継続していただけることを念頭に、機能訓練・レクリエーションに取り組んだ。

平成 25 年度は送迎車両の更新（小型化）により、利用者個々の状態・ニーズに合わせた送迎を行うことができた。

機能訓練については、従来のストレッチ運動や、希望者に対しての歩行訓練に加え、食事前の口腔体操を導入することで嚥下能力の維持・強化に努めた。

レクリエーションについては、平成 25 年度は利用者個々の能力・希望に応じての小規模なレクリエーションを重点的に行った。具体的には、知能リハビリプリント・テーブルゲーム・手工芸・パズル等を実施し、楽しみの中での機能維持を図った。また、利用者全員を対象とし、毎月 1 回「喫茶店」を新規レクリエーションとして始めた。喫茶店は利用者に対し、いつもと違った雰囲気を提供することができ、コミュニケーション機会も増え、好評を博している。

※ 毎回、ストレッチ運動、口腔体操

※ 毎月、誕生会、喫茶店

※ 随時、知能リハビリプリント（まちがい探し・漢字・計算・ぬり絵など）

手工芸、知恵の輪、パズル、カラオケ等

4月	神社庁による健康祈願祭
6月～7月	七夕飾り作り
10月	昼間想定避難訓練
12月	クリスマスツリーの飾り付け
1月	門松の飾り付け
2月	節分の豆まき
3月	神社庁による健康祈願祭

4. 収支状況

本年度の収入は、居宅介護料収入（通所介護事業・介護予防通所介護事業の利用料）24,216,510円、利用者等利用料収入（通所介護事業・介護予防通所介護事業の食事料）1,725,000円、その他の事業収入（介護予防支援通所事業・生きがい支援通所事業の利用料及び食事料）1,893,750円、その他の収入1,200円、合計27,836,460円であった。

支出は、人件費支出20,725,369円、事業費支出3,617,988円、事務費支出1,121,755円、固定資産取得支出276,000円、積立資産支出91,080円、拠点区分間繰入金支出1,225,000円、合計27,057,192円であった。

収支差額779,268円を次年度に繰り越すこととなった。

親 和 寮

1. 概 要

平成 23 年 4 月 1 日より休寮、その後建物を取り壊し、事業を廃止した。

2. 収支状況

本年度の収入は、受取利息配当金収入 138 円、積立資産取り崩し収入 603 円、合計 741 円であった。

支出は、拠点区分間繰入金支出 1,122,724 円であった。

収支差額-1,121,983 円となり、当期末支払資金残高が 0 円のため会計を閉鎖した。